

# 自動車補修用水性塗料

## 指数公表を検討

### データ収集終了 早期実施目指す

#### 自研センター

「段階で行いたい」(同社)としており、社内体制が整い

自研センター(池田直人社長、千葉県市川市)は、自動車補修用水性塗料の指数化の公表について検討し始めた。既に国内外各社の自動車補修用水性塗料について、作業時間や塗料の成分分析などデータの収集を済ませている。公表時期は今後詰めるが、数百車種に及ぶ既存の車両データへの反映と公表方法について社内体制が整い次第、早急に実施する。

自研センターでは、2006年から水性塗料の指数化に向けたトライアルを開始し、07年4月に参考値を発表した。その後も、継続してデータ収集作業を行い、気温や湿度などの気象条件の変化や各社の水性塗料の成分などの研

究、調査を行ってきた。データ収集が終了したことで、指数公表に向けた準備作業に着手する。対応する車種が数百車種にも上ることから、データの反映に一定の期間を必要としている。公表時期については「できるだけ早

次第、早い段階での指数を公表する考えだ。

昨年は、自動車メーカーなどがディーラーの内製BP(板金塗装)工場での水性塗料導入を相次いで発表した。トヨタ自動車やホンダ、ヤマハは内製BP工場で水性塗料による塗装作業を行っている。また、塗料メーカーも水性塗料の新製品発売やデモンストレーションを行うなど、

車体整備事業者間での水性塗料に対する関心も高まっている。一方、指数に関しては参考値しか公表されていないことから、関係者の間では水性塗料の指数化が待たれていた。これまでの参考値から正式な指数となることで、塗料メーカーや関連機器事業者、車体整備事業者の水性塗料導入に向けた動きが加速するようになるそうだ。